

京都厚生園山田の家 徹底解剖!!

日常の様子

脳トレ



巣箱



日曜大工



小鳥の巣箱を作成しました。

ガーデニング



「京都厚生園山田の家」は、当園4つ目の拠点として、本年4月に開所しました。認知症対応型通所介護（予防を含む）事業の他、小さいですが、地域交流スペースを併設し、認知症カフェ（現在は月1回）も開催しています。

当事業所では、認知症の特性も踏まえ、ご利用者のその時の思いや出会い、一緒に過ごさせていただく時間を大切に支援をしていきたいと思っています。

開設から数か月、ご利用者の皆様にたくさんのことを教えていただきながら、一緒に事業所をつくっているところです。これからたくさんの思い出や新たな出会いの花を咲かせ、大きな実になるよう頑張っていきたいと思いますので、ご支援よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、開設に当たりご支援、ご協力を賜りました地域、関係機関の皆様に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



京都厚生園山田の家
管理者 志田 彰大

裁縫



囲碁



縁側



縁側から季節の移り変わりを見ることができます。

体操

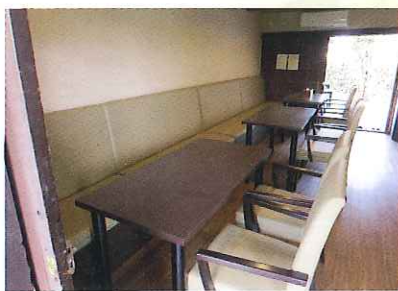


食事



ご利用者と盛り付けをします。

地域交流サロン やまだ「玉静」



玄関



スタッフ一同お待ちしております。

静養室



ゆっくり過ごしていただけるようにベッドも準備しています。

トイレ

物置

静養室

面談コーナー

量

地域交流サロン

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

庭

縁側

床間

トイレ

押入

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

脱衣室

トイレ

お風呂

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

静養室

畑



近隣の山田保育園の子どもたちと、さつまいもの苗を植えました。



畑で野菜を育てています。

お風呂



お一人ずつゆっくり入っていただけます。

近隣散策



松尾神社へ行きました。

『ワシは強い男やけど、
今日だけは泣いた。
涙が止まらん。』

特養入所者「30年ぶり、家族との再会」

5月のある日。『兵庫に墓参りに行くんじや』と92歳の男性「利用者(要介護3)」が、1階まで下りて来られ、玄関から何度も出て行くこととされる。職員が話を聞いてなだめても、『行くんじや』と言い続けておられる……。

いつもでは考えられない状況に「認知症の加減なのか？急にどうしたんだろう？」と首をかしげつつ、気分転換とゆつくりと話を聞くために、数時間ドライブに出かけることにした。しかしどれだけ一緒にいて話を聞いても、「ご利用者の思いの強さは変わらず、切実であった。叶えてあげられるものなら叶えてあげたい。」そう考えた。

そして、「ご本人の思いの実現に向けて私たちの行動が始まった。まずは、ご本人の気持ちの後見人(社会福祉士)立会いのもとで確認し、お金やタクシーの準備が必要なこと、付き添う為の職員と後見人の日取りを決めること、目的地の確認をすることなどを話しあった。提示した地図にお寺の名前を見つけて『ここじゃ。』養父郡が養父市に変わつとるー』と時代の移り変わりに驚かれる。もう、何十年も故郷には帰っていなかったのだ。遠出するのではなく、京都の本山に行くという代替案にも『養父に行かん

意味がないんじや。』とぎつぱりと断られた。一貫してご本人の言葉には言い知れぬ思いと覚悟があった。その揺るぎない決意に接するうち、私たちは5月に行われた「母の日企画」の中で、ご自身の母親への思いが切ないくらいに強くなったのだとやっと確信した。そして墓参りに行くことが決定した。

翌日からご本人は墓参りに行くことを目標に足踏みをしたり、手すりでの起立練習を始めるようになった。あの日の興奮が嘘のように穏やかで、今までより意欲的に過ごされた。



午後1時前にお寺に到着。ご住職に案内されながら、お墓に向かわれる。『ワシの同級生はどうしとる。』と話されるが、数年前に他界されたとの言葉に『そつか。』と肩を落とされる。

お寺や街並みを見ても、首をかしげておられる様

子が続いていた。山手に作られた地域の共同墓地。急な石垣のように作られた坂道を車椅子介助にて登り続けると『ここや。』と急に声を出される。そこには椿が植えられており『ここや。この椿のところや。』とさらに階段を上がったところに先祖代々の墓があるのだが、『もつこいで、えーわ。』と遠慮される。しかし、不規則な石段を何とか介助で上がりきり、お花や線香・まんじゅうなどをお供えすることができた。ご本人は涙を流し、手を合わせて『お父さん。お母さん。この親不孝者をどうか許して下さい。』と何度も何度も語りかけておられる。『親孝行はせんとあかん。』と常に話されていたご本人の言葉の裏側には、自身が親の葬儀にも出られず、数十年兄弟にも会えずに生活してこられた、「親孝行でできなかった」という強い思いがあったのだと、お墓の前で涙されるご本人を目の前にして実感した。ご住職が『せつかく参られた。』とお勤めをしてくださり、その様子を「住職の手をとり、』ありがとう。』ありがとう。』と何度も感謝の言葉を口にされる。



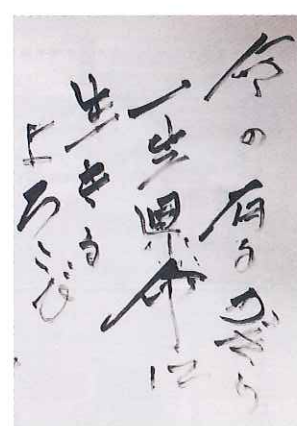
もしかしたら弟さんに会えるかもしれない。ご本人から『ワシの家の前は病院や。覚えてる。』と、周囲を走り弟さんのご自宅前に到着する。『せつかくここまで来た。弟に会いたい。ワシが来ると伝えてくれ。』と話され同行されていた後見人さんが対応される。玄関は開いており、インターホンを鳴らすが出て来られる様子はない。近所の方にも声をかけられ待つこと、しばし。後見人さんより『会えることになった。』とうれしい知らせが。弟さんとの対面が実現した。



惜別の熱い握手

『みんなどうしてる?』と、家族・兄弟のことを心配されていた。『本当に今まで悪かった。墓もお前が綺麗にしてくれていたんや。ありがと。』と。写真を撮らせていただけないかと確認する。会いたいと言われた時に拒絶されるのではと思っていた私たちの心配をよそに弟さんは、『兄弟や。そんなもんかまわんよ。』と言って下さった。ご本人は『また、手紙を書くわ。写真も送るから。』と話される。15分程度の滞在であったが、弟さんが車が見えなくなるまで手を振って見送られていた姿が非常に印象的であった。別れ際に『お互いに歳やし、どうなるか分からん。達者でな。』と声をかけられておられた。

帰路、サービスエリアにてタバコを吸いながら、『弟と会うのもこれが最期かもな。でも元気がでた。長生きするぞ。』と話される。日頃、100歳までと話されているため、これで、100歳までのにびましたね。』と伝えると大笑いされ『そうじゃな。』とつぶやかれる。



後日、習字クラブに参加され、筆を走らせた。

特別養護老人ホーム京都厚生園
(介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

京都厚生園デイサービスセンター
(通所介護・配食サービス事業)

京都厚生園ホームヘルプステーション
(訪問介護・障害福祉サービス事業(居宅介護))

京都市西京区地域介護予防推進センター
(介護予防推進事業)

成逸センター10周年を迎えて！

地域に支えられ、
地域を支えて
成逸センターへの思いと希望



社会福祉法人京都社会事業財団 理事
地域福祉施設成逸センター 初代所長
太田 勝己

光陰矢のごとし、地域福祉施設成逸センターがオープンして早や10年が経ちました。この10周年記念の投稿の依頼を受けて目を閉じると、オープン当初の様々な様子が走馬灯のように浮かんでまいります。

今から10年前、私が総合福祉施設京都桂川園を退職した時に、先輩施設の高齢者総合福祉施設京都厚生園の源野園長から要請があり、成逸センター開設の準備を担当することになりました。

それは私に京都桂川園開設の経験があったことと併せて、生まれも育ちも現住所も上京区の西陣であり、成逸学区周辺の状況にも明るかったためであると思っています。

く日常生活が生まれ広がっていったことであります。ところがセンターが開所した翌年の夏に私は大病を患って、2年間の在任の後に残念ながら退職をいたしました。

幸にも私の後任の所長として成逸センターの母体施設である京都厚生園から、高齢者支援と介護についての経験豊かな寺坂所長さんが就任されて現在に至っております。

私は今でも時々成逸センターを訪ねています。ご利用者が増えている一方で、国の制度改正が繰り返されると言う狭間の中での、職員皆さんのご苦労を窺い知ることが出来ます。

さて、近年地域で暮らしやすさや高齢者への有効な拠点施設として「地域密着型の小規模多機能施設」が注目されてきています。

当時は未だ在宅の高齢者が利用できるデイサービスや介護支援事業所が多くはなかった状況の中で、地域の福祉関係諸団体やボランティア団体の皆様方には、開設準備の段階から地域の情報提供や対象住民への周知や見学会など最大限のご協力をいただけて、早春の暖かな日差しの中での和やかな開所式を迎えたことを記憶しています。

また開所後には、地域の各種団体やボランティアグループの方々の福祉活動に施設を開放して、交流を深めた思い出が残っています。

特出すべきことは成逸センターは全国でも前例のない、障害のある子供たちの総合支援学校との合築になっている、生徒さん達と高齢者が交流し、励ましあっている

成逸センターにおきましても将来展望として、財政上の問題や用地の制約などがありますが、今後検討されていけることを切望します。

西陣の地に生まれ育って77歳の喜寿を迎えている私が、今後は利用者として再び成逸の仲間入りが出来たらいいなと思っています。

括りにあたりまして、センターの今後のご発展とご利用者並びに職員の皆様のご多幸を祈念して、お祝いの言葉といたします。

利用者の方々からのお祝いコメント



松岡 宏樹
平成16年4月3日より利用
利用して10年、特に思い出深いのは運動会での職員による人間ビラミッドです。頂上で手を振る職員の姿に心がしびれる思いでした。



若井登美子様
平成16年11月22日より利用
デイサービスセンター10周年おめでとうございます。早いもので私も利用してもうすぐ10年を迎えます。今利用している人、これから利用する人共に元気で過ごせることをお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。



成逸センター10周年にあたり、たくさんのお祝いのメッセージをいただきありがとうございます。この10年間、たくさんの方々に成逸センターは見まもり支えていただけてきました。おひとりおひとりの顔が浮かんで思い出がいっぱいあふれてきます。

今年の秋にはこの書面では言い表せない思いをこめて10周年記念イベントを企画しています。是非、普段はなかなか見ていただけない成逸センターを見てください。

これからもご利用者・ご家族・支援学校・地域住民・関係機関の皆様への感謝とともに、未来に向かって地域包括ケアの推進と平成36年の10年後を見据えて、成逸センター職員一同目標に向かって頑張ります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

成逸センター所長 寺坂 ユキ子

成逸センターとともに...

今回、成逸センター開設当初より、手芸ボランティアとして活動していただいております、石塚様、深尾様、岡野様の3人に、開設当初のことなど、お話を聞かせていただきました。



地域の手芸教室



左から、深尾様・石塚様・岡野様

も健康が続く限りがんばります！
います(笑)。これから

石塚様 地域での手芸教室は、成逸センターができる前から、成逸会館などで行い、30年続いているんですよ。成逸デイサービスのご利用者さんへの、手芸ボランティアを行うことをきっかけに、成逸センターの会議室を借りて、手芸教室も行うようになったんです。手芸ボランティアの材料は、リサイクル物品を使うように心掛けています。集めるのはけっこう大変なんです。高齢な方でも参加できるような、手芸を考案するなど、大変なことはいっぱいあります(笑)。深尾さんと岡野さんが一緒にいてくれたから、ここまで続けてこれたんだと思っています(感謝！)。

深尾様・岡野様 10年間、ボランティアを続けることは大変なんです。石塚先生がいるから続けてこれたかと思っています。始める時に、ご利用者の方が笑顔で出迎えてくれるのが、何よりも嬉しいんです。ご利用者さんが、今日、これ作ってきたんや」と家族に話している姿をみたり、作った作品を家に飾ってらっしゃると聞くと、もつとがんばらなかなあと思ってしまう(笑)。これから



いつも、楽しいひと時をありがとうございます！これからもよろしくお願いします！(職員一同)

ボランティアのみなさん いつもありがとうございます



レクリエーション補助やクラフト作りでお世話になっております！池田さんがいると皆さん大いに盛り上がります！



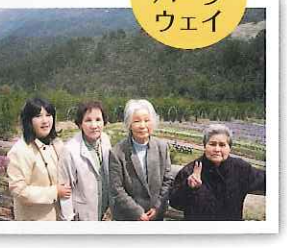
お茶出し・ドライヤー
等ご利用者も安心して
任されています。

毎日午前中のお茶出し・ドライヤー・お話し等ご利用者とも馴染みがあるので大活躍！きめ細かい対応に感謝しております。



深尾様



2014年	2013年	2012年	2011年	2010年	2009年	2006年
● 5周年記念行事 山吹植樹 5周年行事    	● 災害時の協力体制を具体化 ※4 ちびっこ交流会 	● 地域の子ども祭りでオリジナル紙芝居開催 ※3  高雄パークウェイ  子ども祭り 2011  ※3：高齢者の理解を得るために、認知症をテーマにした内容のオリジナル紙芝居『大好きなおばあちゃん』を実施。  	● 京都厚生園居宅介護支援事業所 本体施設より移転 ● ちびっこ交流会初開催以降毎年開催 ● 家族会初開催 以降定期開催 大枝柿街道にて買い物  寿司屋にて外食 	● 京都厚生園松尾の家開設 ● 京都市西京・北部地域包括支援センター 本体施設より移転 ※1 ● 地域の子ども祭り開催 ※2 ● 松尾の家だより発行 新年会  子ども祭り 2009  ※2：旧井戸会議所で行われていた子供まつりが1年ぶりに松尾の家で開催された。 ※1：京都市西京・北部地域包括支援センターは、平成24年2月に愛称「高齢サポート」とシンボルマークが公募により決まった。 	● 京都厚生園松尾の家開設準備開始 旧井戸会議所  建築中  竣工 	

※4：屋外非常ベル設置、火災時の連携について地域と確認
 ①避難先までのご利用者の引率 ③周辺道路の交通整理
 ②避難者（ご利用者）の見守り ④近隣住民への火災発生の周知

挨拶



京都厚生園松尾の家 所長 阿部 裕光

平成21年4月に開所した当事業所も、本年4月に開設5周年を迎えることができました。これもひとえに、地域、関係機関の皆様のあたたかいご支援とご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

当園では、親しみをもっていただくために、各拠点施設でイメージカラーと花を決めており、「京都厚生園松尾の家」は山吹色・八重の山吹となっています。山吹の物語としては、江戸城を築城した、太田道灌（おたどうかん）の話をご存じの方もいらっしゃると思います。

「七重八重 花は咲けども 山吹の実の（實）一つだに なきぞ悲しき」

狩の途中雨に降られ、蓑を借りて来た道灌に、農家の娘が、八重の山吹の一輪（一重の山吹は実をつけませんが、八重の山吹は実をつけない）を渡し、蓑が無いことを奥ゆかしく伝えたという逸話です。当初、道灌は意味が分からず、怒ったが、歌にかけた思いを知り、その後は歌道に励んだということです。

「思い」を知る、推し量ることは言うまでもなく非常に難しいことです。八重の山吹は実をつけませんが、山吹の物語も教訓にしながら、職員全員が「気づき」を身に付け、地域福祉施設として成長し、ご利用者は勿論ご家族や地域の皆さんの「思い」を実現せたいと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

お祝いメッセージ



京都市認可地縁団体松尾会 会長 松尾学区自治連合会 顧問 荒木 祐靖様

「京都厚生園松尾の家」を開設されてから早や5周年、誠にありがとうございます。

設立当初は、地域が長年使用してきた旧会議所の跡地利用のため、まず土地所有権の整理や地縁団体設立などの難問や課題を多く抱えてのスタートであったことを、今では懐かしく思っています。

開設されてから今日まで、地元を交えた事業運営推進会議を中心に「子どもまつり」や「防災訓練」など数々の行事を通じて地域住民との交流や連携を深められ、しっかりと地域で福祉の拠点として育んで来られました。さらにこの地は、敷地内にチビッコ広場が、またお隣に小学校があり、いつも元気な子どもたちの歓声が聞かれます。

今後とも地域との絆を深めながら、福祉事業を通じ一層の地域力を強めていただくことをご期待申し上げます。



京都厚生園松尾の家
 （小規模多機能型居宅介護事業）

京都厚生園居宅介護支援事業所
 （居宅介護支援事業）

京都市西京・北部地域包括支援センター
 （包括的支援事業・介護予防支援事業）

（高齢サポート・西京北部）

貸借対照表

資 産 の 部	
流動資産	345,534,544
固定資産	603,440,975
〔基本財産〕	〔402,790,207〕
〔その他の固定資産〕	〔200,650,768〕
資産の部合計	948,975,519

平成26年3月31日現在

負 債 の 部	
流動負債	51,424,683
固定負債	267,507,910
負債の部合計	318,932,593
純 資 産 の 部	
基本金	263,386,507
国庫補助金等特別積立金	89,107,571
その他の積立金	15,500,000
次期繰越活動経営収支差額	262,048,848
(内当期活動収支差額)	-15,393,258
純資産の部合計	630,042,926
負債及び純資産の部合計	948,975,519

事業活動収支計算書

(自)平成25年4月 1日
(至)平成26年3月31日

科 目			金 額
サービス活動増減の部	収 益	介護保険収入	795,566,849
		障害福祉サービス等事業収益	6,359,220
		経常経費寄付金収益	1,340,000
		サービス活動収益計 (1)	803,266,069
	費 用	人件費支出	601,049,567
		事務費支出	84,212,069
		事業費支出	96,500,708
		減価償却費	40,622,386
		利用者負担軽減額	1,285,520
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-7,963,521
サービス活動外増減の部		サービス活動費用計 (2)	815,706,729
		サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	-12,440,660
	収 益	受取利息配当金収入	41,789
		その他のサービス活動外収益	2,882,794
		サービス活動外収益計 (4)	2,924,583
	費 用	支払利息	2,812,049
		その他のサービス活動外費用	2,208,696
		サービス活動外費用計 (5)	5,020,745
		サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	-2,096,162
		経常増減差額 (7)=(3)+(6)	-14,536,822
特別増減の部	収 益	その他の特別収益	6,145,133
		特別収益計 (8)	6,145,133
	費 用	固定資産売却損・処分損	192,876
		拠点区分間繰入金費用	600,000
		その他の特別損失	6,208,693
		特別費用計 (9)	7,001,569
		特別増減差額 (10)=(8)-(9)	-856,436
		当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	-15,393,258
	繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)	245,942,106
		当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	230,548,848
繰越活動増減差額の部		基本金取崩額 (14)	0
		その他の積立金取崩額 (15)	35,500,000
		その他の積立金積立額 (16)	4,000,000
		次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	262,048,848

寄付・寄贈

皆様のご厚志に感謝します。

(順不同・敬称略)

寄 付 金

- 野瀬一江 ●山岸務
- 濱田洋史 ●水野三千雄
- 藤田幸子 ●西澤源勇
- 松陽自治連合会
- 松陽学区民生児童委員協議会
- 嵐山東社会福祉協議会
- 嵐山東学区民生児童委員協議会
- 松陽山田第一自治会
- 山口好信 ●金田秀子
- 森川百合子 ●小森純
- 京都聖母学院中学校・高等学校
- 村上詔三 ●安田勝
- 成逸老人クラブ成寿会

寄 贈 品

- 井上辰蔵
- 一般財団法人タキイ財団
- 株式会社朱常分店
- 京都婚礼衣装卸協同組合
- 日本たばこ産業株式会社京都支店

※期間：平成25年7月から平成26年6月まで



京都厚生園 正門 (昭和18年頃)

「京都厚生園」とは、現在の京都桂病院の旧名称なのです。

と、いうことで、京都厚生園今昔拾遺物語第三話は、「京都厚生園」という名称の今昔に迫ってみたいと思います。

一方、現在の京都厚生園がある場所には、昭和十二年十一月に「療道協会結核療養所松尾病院」が建設されました。「松尾病院」は、結核で近親者を亡くしていた当法人の前々会長と協力者の方が結核撲滅運動を目的に私財を投げ打って作った病院です。

結核療養所「京都厚生園」が総合病院「京都桂病院」と改称した後、木造で老朽化していた旧「松尾病院」の病棟は次々と廃床されていきました。そして昭和五十一年、旧「松尾病院」の跡地に特別養護老人ホームの建設計画が立てられました。そこでその特別養護老人ホームに「京都厚生園」という名称が復活したのです。それが今現在の「高齢者総合福祉施設 京都厚生園」という訳です。

先日、このようなお問合せの電話がありました。今、この記事を読んでいただいている方は、京都厚生園病院……聞いたことがないな、と思われる方がほとんどではないでしょうか。この地域に長くお住まいの方や、ご年配の方はご存知かもしれませんが、京都厚生園(病院)とは、現在の京都桂病院の旧名称なのです。



財団法人京都府厚生事業協会 京都厚生園 (南園)

時、国家総動員法の下、健兵対策として、「財団法人京都府厚生事業協会(当法人の前身)」が結核療養所「京都厚生園」を現在の京都桂病院のA棟B棟辺りに建設しました。



京都厚生園 全景 (昭和34年11月)

ボランティア

(順不同・敬称略)

- 松陽ボランティアまつぼっくり
- ボボロ
- 川岡地域女性会
- ガールスカウト京都府第27団
- 松陽学区社会福祉協議会
- 浄土真宗本願寺派(西本願寺)京都教区教務所ビハラー京都松陽児童館
- 京都光華女子大学吹奏楽部
- 京都府女子大学吹奏楽部
- 川本 雅子
- 竹岡 希枝
- 泉 雅子
- 井出 正明
- 森 朋子
- 山口 朋子
- 松尾学区社会福祉協議会
- ボランティアの花
- 菜の花会
- 松陽老人クラブ会長 加舎 若樹
- 大昭会
- みやび会
- ふれあい歌謡研究会
- 井岡 晶子
- 成逸センター
- 深尾八重子
- 岡野てるみ
- 池田 清隆
- 森田 好信
- ちよボラマジッククラブ
- 秋田民謡 直富会
- オルゴールサロン・ヒロ
- Jーパンド
- 酒井 萌
- 京都厚生園松尾の家
- 松陽学区社会福祉協議会
- ボランティアの花
- 山下 重喜
- 邦楽一心
- 茅原 北口
- 安達 彰清
- 井岡 晶子
- 石塚千鶴代
- 田中 久子
- 三田村直一

※期間：平成25年7月から平成26年6月まで